

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2467 号

Significance of serum p53 antibody as a tumor marker in colorectal cancer

大腸癌における血清 p53 抗体の腫瘍マーカーとしての意義

高橋 里奈 (たかはし りな)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、血清 p53 抗体値の上昇率を用いて術後モニタリングの有用性を初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

160 例の大腸癌症例を対象とし血清 p53 抗体が、術後の転移・再発のマーカーになりうるかを検討している。特に血清 p53 抗体値の経時的推移に注目し、術後に測定した中で最小の抗体値を「最小値」、最小値以降に測定した値を「測定値」とし、 $\text{上昇率} = (\text{測定値} - \text{最小値}) / \text{最小値}$ を用いて転移・再発との関係を検討し、術前 p53 陰性症例では転移・再発の有無と上昇率に関連は認めなかったが、術前 p53 陽性の症例では転移・再発を認めた症例で有意に上昇率が高い結果となった。

術前に血清 p53 抗体が陽性の症例では上昇率に注意して測定することで転移・再発のマーカーになりうることを示唆されている。術後の血清 p53 抗体値を継続的に観察する実臨床において実践的な方法であり、有意義な報告である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。